

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>  
A 0 1 K 87/06

識別記号

F I  
A 0 1 K 87/06

B

請求項の数 1 (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願平4-49941

(22) 出願日 平成4年(1992) 7月16日

(65) 公開番号 実開平6-9467

(43) 公開日 平成6年(1994) 2月8日

審査請求日 平成8年(1996) 7月9日

(73) 実用新案権者 000002439

株式会社シマノ

大阪府堺市老松町3丁77番地

(72) 考案者 保井 利彦

大阪府富田林市大字甲田585番地1  
3-1213

(74) 代理人 弁理士 北村 修一郎

審査官 関根 裕

(56) 参考文献 実開 平3-105844 (J P, U)

実開 昭64-40738 (J P, U)

実開 昭62-130474 (J P, U)

(58) 調査した分野(Int.Cl.<sup>6</sup>, D B名)

A01K 87/06

(54) 【考案の名称】 釣り竿のリールシート

1

(57) 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 リール(5)の脚部(5A, 5B)を挿通支持する可動フード(1)を、竿の軸心方向に沿って螺進移動するナット部材(7)と、このナット部材(7)の螺進移動によって竿の軸心方向に沿って移動する脚押さえ体(9)とで構成するとともに、前記脚押さえ体(9)に、前記脚部(5A, 5B)を挿通支持する異なる仕様の複数の脚押さえ部(9A, 9B)を形成してある釣り竿のリールシート。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本考案はリールの脚部を挿通支持する可動フードを備えている釣り竿のリールシートに関する。

【0002】

2

【従来の技術】 この種の釣り竿のリールシートにおいて、可動フードを、竿の軸心方向に沿って螺進移動するナット部材と、このナット部材の螺進移動によって竿の軸心方向に沿って移動する脚押さえ体とで構成するとともに、脚押さえ体の周面一箇所を径方向に膨出させて、リール脚部を挿通支持する脚押さえ部を形成してあった(実公昭63-41889号公報)。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】 上記構成になるものにおいて、脚押さえ部が脚押さえ体の周面一箇所に形成してあるだけであるから、脚を挿通して押さえる脚押さえ部の断面形状が一つのものに限定され、リールを取り替えて使用する場合に、脚部の厚さ或いは脚部の幅が異なるものになると対応できない問題があった。本考案の目的は脚部の厚さが異なるもの或いは脚部の幅が異なる

ものに対しても対応できるものを提供する点にある。

#### 【0004】

【課題を解決するための手段】本考案による特徴構成はリールの脚部を挿通支持する可動フードを、竿の軸心方向に沿って螺進移動するナット部材と、このナット部材の螺進移動によって竿の軸心方向に沿って移動する脚押さえ体とで構成するとともに、前記脚押さえ体に、前記脚部を挿通支持する異なる仕様の複数の脚押さえ部を形成してある点にあり、その作用効果は次の通りである。

#### 【0005】

【作用】つまり、脚部の仕様（例えば、幅が異なる）が異なるリールに取り替えて装着する際には、脚押さえ体の姿勢を切り換えるだけで、使用中の脚押さえ部とは異なる仕様を有する脚押さえ部でリール脚部を挿通支持することができる。

#### 【0006】

【考案の効果】したがって、複数の脚押さえ体を装備する必要はなく、単一の脚押さえ体であっても、脚部の仕様が異なる複数種のリールに対する適応性を拡張できる。

#### 【0007】

【実施例】以下、本考案の実施例を図面に基いて説明する。図1及び図2に示すように、リール5の前脚部5Aを挿通保持する可動フード1とリール5の後脚部5Bを挿通保持する固定フード2を形成するとともに、固定フード2を元竿3に外嵌固定し、更に、その前方に雄ネジ部材4を固着してこの雄ネジ部材4に可動フード1を取り付けてある。固定フード2に、後脚部5Bを挿通して保持する脚押さえ部2Aを形成するとともに、周方向反対側に指を掛けるトリガー部2Bを形成し、この固定フード2の後端にコルク製のグリップ6を固着している。

【0008】図1に示すように、可動フード1を、雄ネジ部材4に螺合するナット部材7と、このナット部材7に外嵌固着されるコルク製の前握り部材8と、ナット部材7と竿心方向に一体でスライド移動する脚押さえ体9とで構成してある。ナット部材7は、軸芯方向に亘って大・中・小の3段階の外径面を有し、中・小外径面において前握り部材8を外嵌させることによって、小径外径面を前握り部材8内に入り込ませる構成を採ることができるので、前握り部材8とナット部材7の接着度合いを強固にでき、握り絞めによる振じりを受けやすいコルク製前握り部材8の振じり強度を高めることができる。

【0009】脚押さえ体9の構造に付いて説明する。図2乃至図4に示すように、この脚押さえ体9をリング状体のものに形成し、そのリング状内周面の180°対角位置に脚押さえ部9A、9Bを形成する。つまり、内周面より外周面側に凹入する凹入部を形成し、この凹入部の深さと幅とを、リールの大きさが異なる為に脚部5Aの断面形状等の仕様が異なっているその脚部5Aの断面

10

20

30

40

50

寸法に適合したものに形成し、この凹入部を脚押さえ部9A、9Bとする。しかも、脚押さえ部9A、9Bの断面寸法において一方のもの9Aを他方のもの9Bに比べて、深さを深く、又は、幅を広く、或いは、深さを深くかつ幅を広くしてあるので、大きさの異なるリール5であってもその脚部5Aの断面形状にあった脚押さえ部を選択して使用できる。したがって、異なる脚部5Aを有するリール5であっても使い分け使用可能に構成してある。図3に示すように、脚押さえ体9の内周面にその軸芯方向に沿った突条9a、9aを形成し、雄ネジ部材4に形成した竿の軸芯方向に沿った凹入溝4a、4aに突条9a、9aに係合して、脚押さえ体9を竿の軸心方向にスライド移動可能であり、脚押さえ体9の突起9Cをナット部材7の凹入溝7aに係合させることによって脚押さえ体9をナット部材7に対して相対回転させかつ一体でスライド移動させることができる。したがって、図4（イ）に示すように、一つのリール5に対して使用した脚押さえ部9Aを、脚部5Aの断面寸法が異なる他のリールを装着する場合には、脚押さえ体9をナット部材7とともに雄ネジ部材4より取り外して、周方向に180°反転させて再び雄ネジ部材4に係合させると、図4（ロ）に示すように、今まで使用されてなかった他の脚押さえ部9Bを使用することができるようになる。

【0010】図1に示すように、雄ネジ部材4と固定フード2との間においては、元竿3が露出し、リール5の脚部5Bとともに竿を握る釣り人の手に魚の当たりが直接伝わるようにしてあるが、元竿3の外径そのものが伝達面積を形成するので、細い元竿3径によって伝達面積が十分でない面もある。そこで、元竿3の外周面に凹孔3aか凸部を複数個形成し、伝達面を大きくする構成を採っている。

#### 【0011】〔別実施例〕

① 脚押さえ体9に脚押さえ部9A、9Bを形成する箇所としては、3箇所以上であってもよい。② 脚押さえ体9に脚押さえ部9A、9Bを形成する箇所としては、図5に示すように、脚押さえ体9の軸芯方向両面に夫々仕様の異なる脚押さえ部9A等を形成してもよい。③ 固定フード2を可動フード1にしてもよい。④ 可動フード1と固定フード2との設置位置を入れ換えてもよい。⑤ 脚押さえ体9の別実施構造について説明する。図6及び図7に示すように、この脚押さえ体9を金属製でラッパ状の筒状体に形成するとともに、その筒状体の内面の180°対角位置に脚押さえ部9A、9Bを形成する。この脚押さえ部9A、9Bは図示するように、凹入深さと幅とが異なるものに設定してあり、ラッパ状に開いた開口端より一定長さだけリールの脚部5Aを挿入させて、保持するようにナット部材7側程宿径している。このナット部材7の先端に環状突起7bを設け、脚押さえ体9の対向する先端に環状係合溝9bを形成し、環状突起7bを環状係合溝9bに係合させることによつ

5

て、脚押さえ体9をナット部材7と一体で軸芯方向に移動可能に、かつ、ナット部材7に対して相対回転可能に構成してある。

【0012】尚、実用新案登録請求の範囲の項に図面との対照を便利にするために符号を記すが、該記入により本考案は添付図面の構成に限定されるものではない。

【図面の簡単な説明】

【図1】 リールを取り付けたリールシートを示す縦断側面図

【図2】 可動フードを示す分解縦断側面図

【図3】 脚押さえ体の装着状態を示す縦断正面図

【図4】 (イ) 薄い脚部を脚押さえ体に取り付けた状態を示す縦断側面図

(ロ) 脚押さえ体を(イ)の状態より180°反転さ

6

せてその脚おさえ体に厚い脚部を取り付けた状態を示す縦断側面図

【図5】 前後に異なる仕様の脚押さえ部を形成した脚押さえ体の縦断側面図

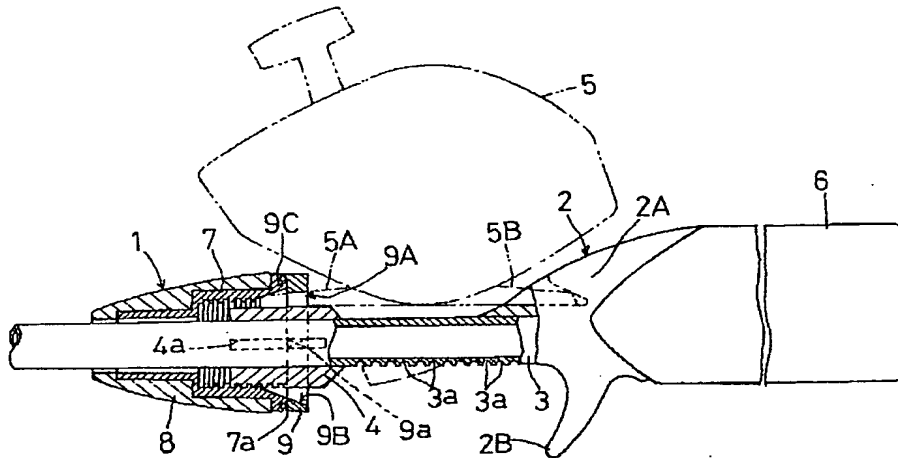
【図6】 脚押さえ体の別実施例を示す縦断側面図

【図7】 図6に対応する脚押さえ体の正面図

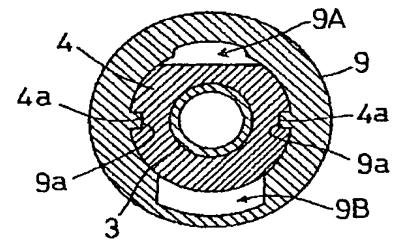
【符号の説明】

- |        |           |
|--------|-----------|
| 1      | 可動フード     |
| 5      | リール       |
| 10     | 5A, 5B 脚部 |
| 7      | ナット部材     |
| 9      | 脚押さえ体     |
| 9A, 9B | 脚押さえ部     |

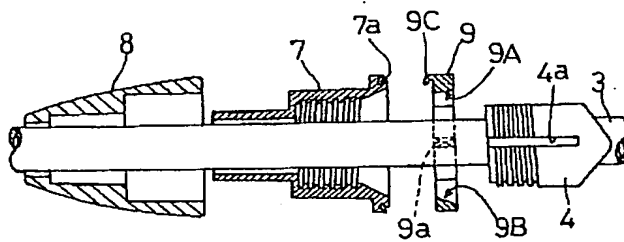
【図1】



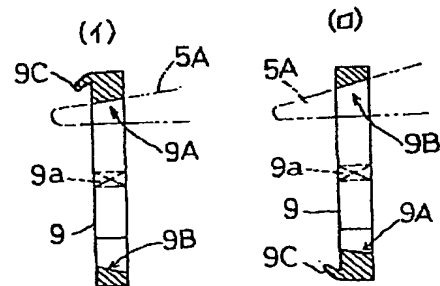
【図3】



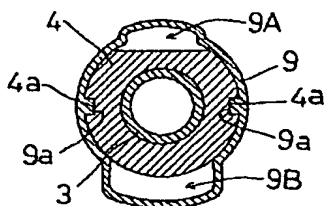
【図2】



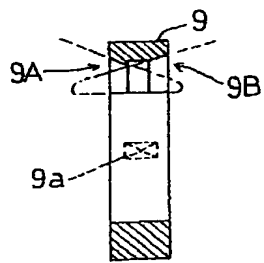
【図4】



【図7】



【図 5】



【図 6】

